



インドネシアの母たち

企画／(財)家族計画国際協力財団



■解説

インドネシアは、五つの大きな島と三千数百の小さな島からなる多島国家で、総人口は約一億三千五百万人。豊かな伝統文化と美しい自然に恵まれた東南アジア第一の大国である。この映画は、インドネシアの中心ジャワ島のごく普通の米作農民の生活と、そのことを伝えようとするものである。

ジャワ島は、国の総面積の7%足らずの島だが、実に総人口の63%が集中して暮している。アジア地域で深刻化している人口問題はここでも大きな問題である。以前から積極的に進められてきた家族計画運動が、最近新しい方向に進みはじめた。民衆の伝統的な生活を尊重し、その風習を生かしながら、民衆自身の立場に立った家族計画を進めようという運動である。映画では、その運動の展開を具体的に描くことによって、村人たちのものの考え方、生活の仕方、生活感情を判りやすくとらえている。

家族と社会の中心である母親たちが、今、伝統的な暮しの中で、いかに前向きに生きようとしているのか。アジアの民衆を知るための必見の映画といえるだろう。

■製作■

株式会社 **桜映画社**
東京都新宿区西新宿1-22-1
〒160 電話03(342)5768

■あらすじ

ジャワ島中部の農村の朝市でバビロ家のお母さんに出あった。彼女は9人の子持ちで働きものだ。米作の他、パティックと呼ばれるろうけつ染の内職がさかんで、子供たちも、家畜の世話、子守り、パティックの手伝いと、よく働く。

村の近くの診療所には、家族計画のフィールドワーカーが配属されてきて、村長などの協力を得て地道な普及啓蒙活動をしている。人々の生活を支配しているものは、イスラム教と、ゴトロンヨンと呼ばれる伝統的な相互扶助の慣習で、この制度に村人たちの健康管理をうまく組み入れた村もある。ここでは医師が村人を育成して、簡単な病人なら治せるようにもしている。

こうした運動の広がりの中で、村の母親達も子供や自分達の健康に関心をもつようになってきた。月に一度の避妊具の配給を受ける日には、料理や洋裁等の講習も行われ、母親達の楽しい集まりの日になった。

バビロの家では、長男が同じ村の家に婿入りすることになった。当日、花嫁の家には人々が集まり、ガメランを奏して大変な賑いである。次第に変わりつつある村からまた新しい人生が始まっていく。

■スタッフ

製作 村山英治
脚本 村山正実
演出 村山正実
撮影 小林一夫
北川英雄
音楽 広瀬量平
解説 久米 明

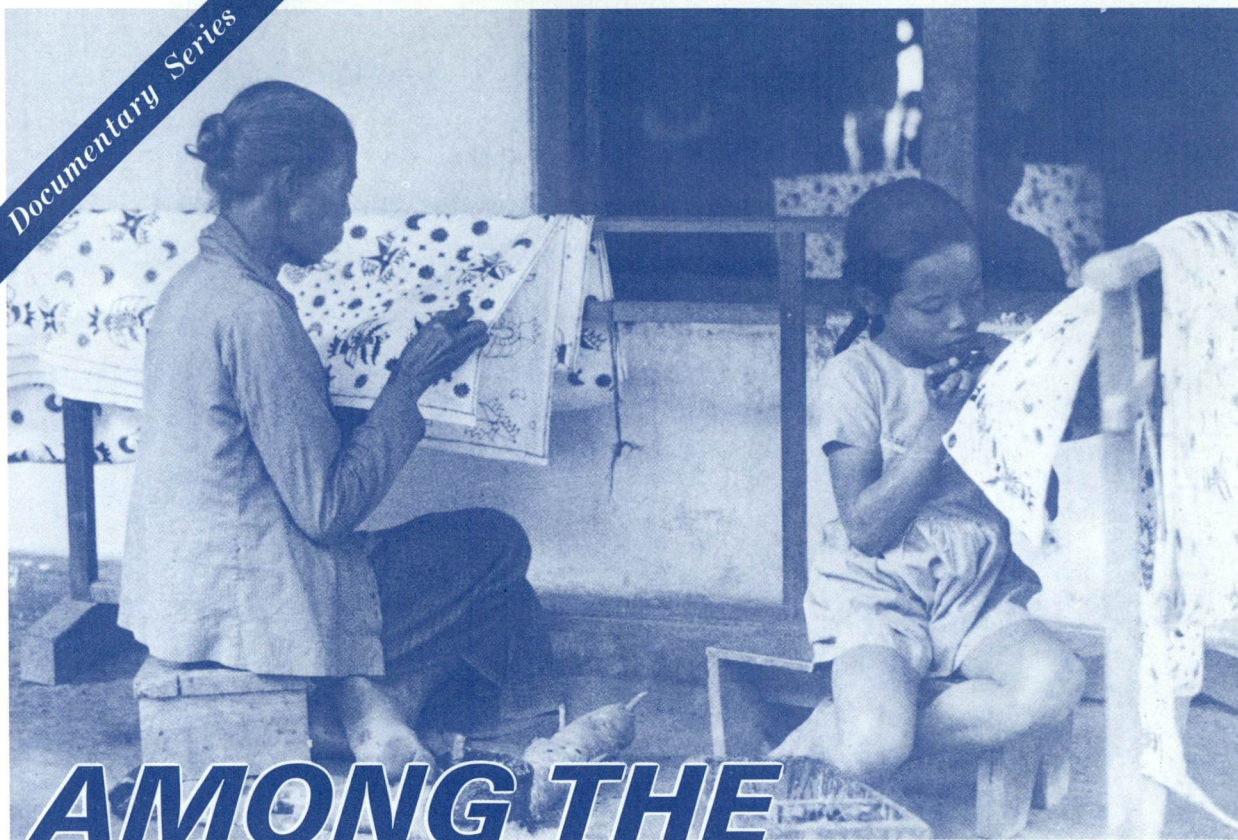
アジア映画シリーズ

- ②スマトラ物語
- ③村に生きるスラベシ島の人々
- ④カラモアンわが村(フィリピン)
- ⑤カティワラ(フィリピン)
- ⑥アメナ(バングラデシュ)
- ⑦菩提樹の下で(スリランカ)

■16ミリ・カラー・32分・170,000円

■配給■

Documentary Series



AMONG THE VILLAGE PEOPLE

— A Family Planning Experience in Central Java, Indonesia —

16mm Color / 32 min. / English, Japanese

Directed by Sakura Motion Picture Co., Ltd. Standard Bldg., 22-1, Nishi-Shinjuku 1-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 160, Japan Phone: 342-5768 Cable: SAKURAMOVIES TOKYO

Introducing new trends in family planning on the densely populated Java Island of Indonesia, where 63% of the nation's total population is concentrated.

SYNOPSIS

Mrs. Pawiro, a mother of nine children appears on the screen. She and her children are all hard workers, and while Mrs. Pawiro is busy working in the rice paddies or producing batik, the traditional fabric, the children help by feeding the livestock and looking after their younger brothers and sisters.

At the neighboring health clinic, field workers are promoting various family planning activities with the cooperation of the village headman.

At this village, Islamic precepts have combined well with modern health care and the traditional custom of mutual-help. Villagers have been trained by doctors to

care for simple cases.

As the movement gradually expanded, women also became interested in the health of their children as well as themselves. Women enjoyed the once-a-month contraceptive distribution, which provided an opportunity to learn new skills in cooking and sewing.

The oldest son of the Pawiro family married a village maiden. On the wedding day, cheerful Indonesian folk music was played on their traditional instrument called 'Gamelan', rejoicing the birth of a new couple in a village steadily progressing towards modernization through the Integrated Project.

Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP)

JOICFP

Hoken Kaikan Bekkan, 1-1, Sadohara-cho, Ichigaya, Shinjuku-ku, Tokyo, 162 JAPAN

Phone: 268-5875/Cable: JOICFPJAPAN TOKYO